

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健福祉援助演習（Ⅰ）	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	2年		

学びの準備	ねらい 本科目は、精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る基礎的な知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を滋養する。	メッセージ
	到達目標 精神保健福祉士として必要な、最低限の相談援助の知識・技術を習得する	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	導入	
	2	基本的なコミュニケーション	
	3	基本的なコミュニケーション	
	4	自己覚知	
	5	自己覚知	
	6	基本的な面接技術の習得	
	7	グループダイナミックス活用技術	
	8	情報の収集・整理・伝達の技術の習得	
9	課題の発見・分析・解決の技術の習得		
10	記録の技術の習得		
11	地域福祉の基盤整備（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握）		
12	地域福祉の基盤整備（地域アセスメント）		
13	地域福祉の基盤整備（地域福祉の計画）		
14	地域福祉の基盤整備（ネットワーキング）		
15	地域福祉の基盤整備（社会資源の活用・調整・開発）		
16	地域福祉の基盤整備（サービス評価）		
実践	テキスト・参考文献・資料など 講義開始時にテキストについては説明する。		
	学びの手立て		
	評価 評価は、1)ゼミ活動（ゼミのなかでのディスカッションを含む）への参加態度、2)出席、3)レポート・課題の提出、4)その他にもとづき行っていく。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健福祉援助演習(Ⅱ)	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	2年		

学びの準備	ねらい 精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と後術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を滋養する。	メッセージ 精神保健福祉士に求められる地域との連携にもとづいた相談援助の知識と技術について、ロールプレイング等をまじえた演習活動を通して、その能力を培っていく。
	到達目標 1 総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げていく。 2 個人指導並びに集団指導を通じて、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行っていく。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	導入およびオリエンテーション	
	2	精神障害者への社会的排除・偏見・歴史①	
	3	精神障害者への社会的排除・偏見・歴史②	
	4	退院支援、地域移行、地域生活支援①	
	5	退院支援、地域移行、地域生活支援②	
	6	ピアサポート	
	7	精神障害と自殺	
8	ひきこもり支援の現状とシステム		
9	薬物・アルコール依存症者、家族への支援①		
10	薬物・アルコール依存症者、家族への支援②		
11	精神障害者の支援と児童虐待		
12	ライフスパンの支援—教育から就労へ		
13	貧困、低所得、ホームレスと精神障害者		
14	精神科リハビリテーション①		
15	精神科リハビリテーション②		
16	まとめ		
実践	テキスト・参考文献・資料など 講義開始時にテキストについては説明する。		
	学びの手立て		
	評価 評価は、1)ゼミ活動（ゼミのなかでのディスカッションを含む）への参加態度、2)出席、3)レポート・課題の提出、4)その他にもとづき行っていく。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	精神保健福祉援助演習（専門）	通年	火 2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	2年		

学 び の 準 備	ねらい 精神保健福祉援助技術の体験的学習の場として1年を通じて学習していく。精神疾患をかかえながら生きるということはどういうことか、精神保健福祉にかかる資源、ケースの見方・聞き方、当事者や家族への対し方、技術としての面接、グループの運営の仕方、NPO法人や地域福祉の展開の意義などミクロからマクロへの展開を体験的に伝える場とすることを目的とする。	メッセージ
	到達目標	

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1年間を、①利用者理解のための基本的態度、②援助技術の習得、③精神保健福祉をとりまく社会資源の学習、④精神保健福祉-現在と未来に分ける。それぞれの中で具体的な講義・活動内容について説明する。
	テキスト・参考文献・資料など 講義開始時にテキストについては説明する。
	学びの手立て
	評価 評価は、1)ゼミ活動（ゼミのなかでのディスカッションを含む）への参加態度、2)出席、3)レポート・課題の提出、4)その他にもとづき行っていく。

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目
-----------------------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	精神保健福祉援助実習指導	通年	水3(後期)・水4(通年)	6
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	知名 孝	4年	総合文化学部人間福祉学科 知名孝	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①精神保健福祉援助実習の意義について理解する ②精神保健福祉援助実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。	精神障害者のおかれる現状を把握したうえで、精神保健福祉実習の意義について理解し、精神保健福祉士として求められる資質について掘り下げていく。

到達目標	精神保健福祉士としての資質についての考察を深め、各学生が精神保健福祉実習への課題を設定できるようにする。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	導入およびオリエンテーション	
	2	精神保健福祉実習の意義と目的	
	3	精神保健医療福祉の現状の理解①	
	4	精神保健医療福祉の現状の理解②	
	5	実習施設の基本的理解①	
	6	実習施設の基本的理解②	
	7	現場体験学習及び見学実習(発表・報告)	
	8	現場体験学習及び見学実習(発表・報告)	
	9	実習先で必要とされる専門的知識と技術	
	10	精神保健福祉士の職業倫理と法的責務	
	11	プライバシー保護と守秘義務の理解	
	12	実習計画の作成	
	13	実習計画の作成	
	14	実習ノートと記録について	
	15	スーパービジョンの活用について	
	16	実習期間中のフォロー会	
	17	実習期間中のフォロー会	
	18	実習期間中のフォロー会	
	19	実習記録をふまえた実習体験のとらえ直し	
	20	実習記録をふまえた実習体験のとらえ直し	
	21	実習報告	
	22	実習報告	
	23	実習報告	
	24	実習報告	
	25	実習総括レポートの作成	
	26	実習総括レポートの作成	
	27	実習総括レポートの作成	
	28	実習報告会にむけて	
	29	実習報告会にむけて	
30	実習報告会の開催		
31	実習の評価・全体総括		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>①『新・精神保健福祉士養成講座第9巻 精神保健風刺援助実習指導・実習』（中央法規出版）</p> <p>②その他必要に応じて提示する</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>授業態度（演習ワークやディスカッションへの参加）、出欠状況、レポート等を総合して判断する。実習後の評価は、実習先の実習指導担当者の評価や実習生本人の自己評価を総合して判断する。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>